北杜市

小児肺炎球菌ワクチン予防接種を受ける前に

1　病気の説明

肺炎球菌は、主に気道の分泌物により感染を起こします。集団生活が始まるとほとんどの子どもが持っているといわれる細菌で、何らかのきっかけで進展することで、肺炎球菌感染症や肺炎、中耳炎、髄膜炎などの重い合併症を引き起こすことがあります。

特に、髄膜炎をきたした場合には2%の子どもが亡くなり、10%に難聴、精神の発達遅滞、四肢の麻痺、てんかんなどの後遺症が残ることもあります。また、幼い子どもほど発症しやすく、特に0歳児でのリスクが高いとされています。

2　ワクチンの説明

肺炎球菌は97種類があり、それぞれ特徴が異なりますが、小児肺炎球菌ワクチン(沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン)を接種することで、特に重篤な肺炎球菌感染症を引き起こすことの多い13種類の肺炎球菌による感染症の重症化を予防できます。

●副反応

○最も多くみられる副反応は、注射した部位の発赤(赤み)、腫れ(腫脹)です。
　また、接種者の約70%に発熱がおこります。他のワクチン接種でも見られるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので、数日で消失します。

○重篤な副反応として極めて稀に、ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん・呼吸困難・顔面浮腫等)、けいれん、血小板減少性紫斑病がみられます。

●接種の標準的な時期　**初回接種＝3回、追加接種＝1回、合計4回接種する**

生後2か月から7か月までの間に1回接種します。1回目と2回目および3回目の間は27日以上の間隔をあけて接種します。4回目は生後12か月(1歳)から生後15か月(1歳3か月)までの間に、1回目終了後60日以上の間隔をあけて接種します。

1回目 ---27日以上あける--- 2回目 ---27日以上あける--- 3回目 ---60日以上あける--- 4回目

0歳2か月から0歳7か月まで

1歳0か月から1歳3か月まで
(最大:5歳の誕生日前日まで)